

## 6 温泉が生み出す文化～信仰・文学・アート～

那須塩原市の特徴の一つとして、塩原・板室・三斗小屋の温泉群と山岳信仰の歴史があります。

塩原温泉は、大同元年（806）に発見されたと伝えられ、塩原十一湯と呼ばれる泉質の違う温泉地が連なり、近世初頭より湯治場として栄えてきました。明治に入り三島通庸の塩原新道開削により交通の便が良くなると、皇族をはじめとする名士や文化人、そして、近代文学のリーダー達がこぞって訪れ、独特の文化的発展を遂げました。

板室温泉は、那珂川支流の湯川に沿う形で形作られた湯治場ですが、元禄8年（1695）の会津中街道開削により宿場町として栄えました。同じく三斗小屋にも温泉が湧出し、白湯山信仰と相まって賑わいを見せました。

白湯山信仰、黒滝山信仰、嶽山信仰として山岳部に見られる修験道の影響は、明治に至るまで隆盛を見せましたが、近年衰退し、今は名残をとどめるのみです。

これら山間部において培われた歴史や文化は、平野部の歴史とは異なる那須塩原市のもう一つの側面であり、本市の歴史文化の多様性と魅力を物語るものです。

### 1. 1200年の歴史を有する塩原温泉

塩原温泉地区は、市内西部の山間地の箒川上流域に位置し、塩原盆地を中心とした塩原温泉街を擁することで広く知られています。地区の中心である塩原温泉は、日光国立公園に含まれます。近世初頭の元湯は湯宿37軒となり「湯本千軒」と呼ばれるほどに興隆しました。また、下塩原では、江戸時代の安永4年（1775）に5,000人を超す入湯者があったという記録があります。明治時代になると、栃木県令三島通庸が行った塩原新道の開削により、交通の便が格段に良くなり、その後は政治家や名士がこぞって塩原を訪れ、別荘を設けるなどしました。歴史的には、地震災害などにより中心地の変遷がありましたが、温泉を巡る数々の歴史が現在の姿を形作ってきました。

平安時代の大同元年（806）に発見されたと伝えられる塩原温泉は、地区ごとに泉質も異なり、箒川の溪谷に沿って11の温泉地が連なり、「塩原温泉十一湯」と呼ばれてきました。

### 2. 板室温泉と三斗小屋温泉

板室温泉は、康平2年（1059）那須三郎宗重が発見したと伝えられる、那珂川支流の湯川沿いの山峡に開けた湯治場です。塩沢（温泉）とも呼ばれ、昭和45年（1970）には「国民保養温泉地」に指定されています。

三斗小屋温泉は、康治元年（1143）奥州信夫郡信夫村の生島某の発見によると伝えられ、朝日岳西側の山腹標高1,500mの高地に位置しています。谷を約3km下ったところに会津中街道の三斗小屋宿があり、白湯山信仰による参詣者の湯宿としても重要であったため、明治初年までは大いに賑わいを見せましたが、現在2軒の湯宿が残るのみです。

近世から近代に至る温泉がもたらした歴史や文化の豊富な記録・古文書が、市内各地に残されています。

分野	名称
指定文化財	塩原温泉元湯古絵図・板室温泉「温泉記」・板室本村の湯本道標・加登屋旅館本館・加登屋旅館別館・加登屋旅館悠仙閣

### 3. 山岳信仰～白湯山・黒滝山・嶽山～

#### 白湯山信仰

白湯山（「はくゆさん」又は「はくとうさん」）信仰は17世紀後半に羽黒修験の影響下で成立したといわれます。

白湯山は、茶臼岳西側下方八合目付近の温泉の涌出源で“御宝前の滝”とも称し、江戸時代から昭和初期に至る長い間、修験者による山岳宗教の霊場となっていた所です。

白湯山とは、旧会津中街道三斗小屋宿からの登拝名で、那須湯本温泉からの登拝名は「高湯山」と呼ばれます。三斗小屋宿は白湯山信仰の隆盛に伴い門前町として栄え、信者によって寄進された石灯籠や石仏などが現在も残っています。



三斗小屋に残る石灯籠と石仏

分野	名称
指定文化財	三斗小屋宿跡・板室本村の銅造大日如来座像
未指定文化財	「白湯山」碑

#### 黒滝山信仰

黒滝山信仰は、明和9年（1772）5月に百村（旧黒磯市百村）内の地蔵院・光徳寺・光雲寺・光照寺の4寺院から寺社奉行所宛てに開山願いが提出されていることから、これ以降の開山であったと考えられています。文化・文政期に最も活発となったと考えられていますが、現在は行われていません。

鳴内の大日如来を起点として、大蛇尾川上流の黒滝山頂まで2日を要し、24の札所を回り、札所は滝や奇岩・大岩などを行場として、険しい山中に挑む登拝であったと知られています。近隣の村々をはじめ、江戸や仙台などからの寄進も見られます。

旧暦4月8日に山開き、同8月8日山止め、登拝期間は白湯山と同様であり、拝所名など類似点の多さが指摘されています。



黒瀧山大日尊

分野	名称
指定文化財	黒瀧山大日尊
未指定文化財	24か所礼拝所

■ 黒滝山信仰ルート



※国土地理院標準地図を加工して作成

黒滝山二十四礼拝所 黒滝権現市解説板より	
番号	名称
1	荒沢大聖不動尊・大日尊
2	弁財天
3	両部曼陀良石
4	左御久良伎山神
5	御水神山
6	岩谷観音（後天子）
7	役乃行者
8	古倉山（前天子）
9	地藏尊
10	両部滝
11	弘法大師護摩石
12	天登大日山
13	雷光滝（一の滝）
14	推量権現（二の滝）
15	八万八千仏（賽の河原）
16	御宝前
17	御裏三宝公神
18	（欠所）
19	雷風二神
20	天狗岩窟
21	母の胎内潜り
22	薬師岳
23	五百羅漢
24	四天王

嶽山信仰

高原山は、那須塩原市・日光市・塩谷町・矢板市にその山体が広がり、分水嶺によって行政界を成しています。「下野風土記」に「塩谷郡大山也、東嶽、中嶽、西嶽ノ三所ニシテ一山也。東嶽ハ那須郡ニマタガル。」とあり、それぞれ、釈迦ヶ嶽（東嶽）（1,795 m）、鶏頂山（1,765 m）中岳（1,728 m）、月山（西平岳）（1,712 m）と呼ばれています。高原山は奈良時代より山岳信仰の山として栄え、嶽山修験とも呼ばれました。高原山下、箒川、赤川の滝などで修業を行い、根本道場の一つとして塩谷地内の吉野大行院温泉寺などが知られています。塩谷院の末流としての大行院があり、現在は高原山神社（旧高原山社大権現）が祀られています。現行の主祭神は大国主命・事代主命・月読命となっています。



嶽山箒根神社奥の院



嶽山箒根神社奥の院（本殿）



嶽山箒根神社高清水

分野	名称
指定文化財	嶽山箒根神社奥の院（本殿・他2社）・嶽山箒根神社高清水（遥拝殿）・上塩原の箒根神社（本殿）・金沢の箒根神社（本殿）・嶽山箒根神社梵天上げ・嶽山箒根神社の大杉

## 4. 温泉神社・湯泉神社

温泉神社は、那須地域を代表する神社であり、本市の特徴を示すものとしても重要です。市内では、建造物として指定している神社が塩原温泉に5社、板室温泉と三斗小屋温泉に1社ずつありますが、指定文化財以外にも、村社として祀られてきた温泉神社が多数あり、旧黒磯市地区や旧西那須野町地区にも広がっています。

温泉地区にある神社は、宿場の繁栄と旅人の安全を守り、病を除くところとして古くから崇められ、現在に至っています。

分野	名称
指定文化財	板室温泉神社本殿・三斗小屋温泉神社本殿・新湯温泉神社（本殿）・畑下温泉神社（本殿）・塩の湯温泉神社（本殿）・茗荷温泉神社（本殿）・福渡温泉神社（本殿）・温泉神社石幢
未指定文化財	塩釜温泉神社・塩原温泉古式湯まつり

## 5. 温泉と芸術～文豪と美術家～

江戸時代の古文書によれば、塩原に入湯のために訪れた藩主などは、宇都宮藩主をはじめ烏山藩主、黒羽藩主、喜連川藩主、佐久山公などが知られています。なかでも、天保6年（1835）「宇都宮 戸田因幡守様 御入湯控帳」に記録されている一行は170名という大規模なものでした。このほかに、主に水戸などの儒学者をはじめ多くの人々が来訪し、後に「紀行文」などを著しています。こうした記録は本市の往時の様子が分かる貴重な史料となっています。

明治時代になると、交通の便が格段に良くなり、華族をはじめ文学者や美術家などが多く来訪するようになりました。明治21年（1888）に畑下に別荘を構えた奥蘭田は、塩原の名勝地を探り、風俗、古跡、伝説、温泉等を紹介した『塩溪紀勝』を記しました。尾崎紅葉は、明治32年（1899）に塩原を訪れ『続々金色夜叉』を執筆しました。同書の中に塩原の景色が描かれています。奥蘭田と尾崎紅葉は、塩原新道を開削した三島通庸と並び塩原の三恩人と称えられています。そのほかにも、夏目漱石、国木田独歩、田山花袋、森田草平、徳富蘆花、斎藤茂吉、与謝野鉄幹・晶子など多くの文人が訪れています。

大正時代には、幼少期や戦時中を塩原温泉で過ごした川瀬巴水が、塩原を題材にした版画でデビューしています。

分野	名称
未指定文化財	塩原を題材とした文学作品・川瀬巴水作品・文学碑・記念碑社

## 戦時疎開のために来訪滞在した児童・生徒たち

塩原を訪れた多くの文人・芸術家など保養を目的とした人々のほか、忘れてはならない事実には太平洋戦争下で行われた学童の集団疎開があります。県内では東京の港区・文京区・新宿区などから16,000人に近い学童の集団疎開を受け入れ、このうち塩原温泉地区の温泉旅館には、女子学習院生徒（初等科4年から中等科2年まで及び皇女を含む。）212人をはじめ、4,000名を超える児童・関係者が滞在したといわれます。



明賀屋太古館

## ロイヤルリゾート

明治35年（1902）皇太子嘉仁親王（後の大正天皇）が塩原に行啓されました。その翌年、再び塩原に行啓され、その時三島家の別荘にひと夏滞在されました。これを大変な名誉とした三島家から皇室に別荘が献上されたのは明治36年（1903）のことです。この別荘が塩原御用邸の前身となりました。御用邸の誕生が、塩原をロイヤルリゾートへと押し上げ、これに倣うかのように、多くの著名人の別荘が建ち並ぶこととなります。

塩原御用邸は昭和21年（1946）に廃止されましたが、旧御用邸の新御座所は移築され、天皇の間記念公園として公開されています。

分野	名称
指定文化財	旧塩原御用邸新御座所・品川弥二郎の旧念仏庵
未指定文化財	明賀屋太古館・塩原温泉まつり